

# 中学校 特別の教科 道徳における畏敬の念の指導に関する一考察

## ～教科書における写真に着目して～

角島 誠\*

(令和7年10月31日受付)

### A Study on the Teaching of Awe in the special subject Moral Education at Junior High Schools in Japan — Focusing on Photographs in Textbooks —

Makoto KADOSHIMA

(Received October 31, 2025)

#### 概要

中学校の「特別の教科」道徳における内容項目「感動、畏敬の念」について、検定2巡目の教科書7者21冊における写真について量的・質的に分析し、以下の結果を得た。同一の内容項目で写真が用いられた教材数を全教材数で除した割合が、「感動、畏敬の念」では98.8%であり、同項目における写真利用が多いことが確認されたが、内容を具体的に指し示して説明する啓蒙的な使い方も多く、それらは1ページあたりにしめる写真面積が小さいことがうかがえた。扱う内容は、空間的な広さ大きさを扱っている「宇宙・空」とジャンル分けしたものが8冊38%と最も多く、「樹木」が5冊23.8%と両者で13冊61.9%となり、ページ全面使用もこの2つのジャンルが多かった。また、中学1,2年での画像の占める割合やページ全面使用の割合が高く、中学3年になると写真の割合が下がるなど、発達に対応した必然を量的に確認した。芸術の写真の扱いは全体で1者3点のみと極端に少なかったが、「畏敬の念」と「感動」を分けて「感動」のみの指導を行い、美術との関りを示したものが2冊あった。そして、awe研究の知見や手法を踏まえた捉え方や教材の検証や開発の必要性を示唆した。

**キーワード:** 中学校, 道徳, 畏敬の念, 教科書, 写真

#### 1. はじめに

##### ①教科書化

周知のように、「特別の教科」道徳が中学校では2019年度より全面実施されている。そして、2021年度に実施状況調査が行われた。表1は、この調査結果で示された中学校での道徳の「特別の教科」化を受けた16項目の変化に対する4件法のアンケート結果の集計表<sup>(1)</sup>を「とてもそう思う」の高い順にソートし、「とてもそう思う」と「どちらかとそう思う」の合計を示したものである。

「とてもそう思う」が4割を超えかつ肯定的回答が9割を超えている上位2項目、並びに3項目目より、現場における道徳の位置づけが従前と違って重みをもってきていることがうかがえる。そして、7項目目から11項目目と13項目は「と

てもそう思う」が2割未満であるものの合計で8割は超えるという値であり、総じて肯定的な変化がうかがえる。

表1 道徳の「特別の教科」化を受けた変化(中学校)

項目	とても そう思う	どちらか という そう思う	合計
1 道徳教育に対する教師の意識が高まった	41.40%	54.40%	95.80%
2 授業時間数を十分に確保して指導することができるようになった	41.10%	50.30%	91.40%
3 他教科等に比べ道徳の授業が軽視されるような風潮がなくなった	30.60%	58.00%	88.60%
4 教科書があることで、適切な教材の選択・作成等に係る負担が減った	28.60%	54.90%	83.50%
5 「道徳の時間」に比べて「道徳科」の授業公開の機会が増えた	18.00%	43.80%	61.80%
6 指導方法等の研究会や研修会等が活発になった	17.90%	60.10%	78.00%
7 より体系的な指導が行えるようになった	17.10%	67.70%	84.80%
8 児童生徒同士による話し合いや議論が活発になった	17.00%	68.40%	85.40%
9 学校として育てようとする児童生徒像をより意識して指導するようになった	16.80%	72.20%	89.00%
10 学校全体における道徳教育の水準の向上が図られた	16.70%	70.90%	87.60%
11 評価することで、児童生徒の成長が把握でき、指導の効果が実感できるようになった	14.90%	67.50%	82.40%
12 校長をはじめとする管理職が関わるが増えた	14.00%	57.60%	71.60%
13 「道徳の時間」に比べて児童生徒の「道徳科」の学習意欲が高まった	10.50%	69.80%	80.30%
14 学校や児童生徒の実態を踏まえた指導がしやすくなった	8.70%	68.20%	76.90%
15 各教科等や体験活動との関連が図られるようになった	5.60%	60.20%	65.80%
16 家庭や地域社会からの理解がより得られやすくなった	2.50%	44.70%	47.20%

\* 法人局初等中等教育研究センター ICTセンター, 広島工業大学環境学部食健康科学科

そして、この「特別な教科」化に伴い教科書が登場したが、どのような受け止めがされているだろうか。

各校や教員が自主的に様々な教材を集め吟味していく手間暇の代わりに、教材が整えられた1冊の図書としての教科書である。各学年1冊ずつ、しかも殆どの教科書で年間の35教材が用意されている教科書が登場したことによって、以前の3学年で1冊という「私たちの道徳」とは比にならないリソースとなったことは明白である。教職の初任者や生徒にしてみれば、文言、写真、イラストなどの目に入る情報全てが揃う教科書の存在は大きい。そして、初任者や生徒のみならず、表1の4項目目「教科書があることで、適切な教材の選択・作成等に係る負担が減った」との問いに「とてもそう思う」が約3割、そして83.5%が肯定的回答を示している。働き方改革の文脈からも教科書の登場の意味は大きいといえよう。

ある意味、「私たちの道徳」のように全国一律な教材がある場合は、様々な意味での基準となるものであったし、教員の創意工夫教材の自由度も高かったといえよう。※1)

教科書ができたとはいえ、自分のクラスに向けて教員が創意工夫していくことが不要になるわけではない。そして、「道徳の時間」の時代に教材を手作りしてきた世代の教員から、検定教科書教材の使用義務と教師の「創意工夫」との矛盾の指摘や懸念が出てくることも然りである<sup>(2)</sup>。

また、先ほどの実施調査報告において、教育委員会の回答による課題につながる変化として

- ・「道徳教育の全体計画や別業、年間指導計画の作成に当たり教科書発行者が提供する見本に頼ることが増えた。」
- ・「教科書の発問例に依存し、児童生徒や学級の実態を踏まえた授業展開が行えていない場合がある。」

といった指摘もなされた<sup>(3)</sup>。

更に、この度の教科書について、寺脇(2018)<sup>(4)</sup>は、拙速に教科化が進められたことによる通常の教科書検定のスケジュールから比して極めて異例のスピードで作られた「量産された完成度の低い教科書」と形容した。村松(2019)<sup>(2)</sup>はこの状態を指して、「皮肉なことに、「考え議論する道徳」をめざす教科書作り自体が、十分に「考え議論する」過程を経ているわけではない。」と指摘している。

このように諸々の負の部分も指摘はされるものの、やがては教科書があることが当然となった教員、そして教科書がある前提で生徒として育ってきた世代、更にはコロナ禍を経て、教室における画像や動画を扱える環境が各段に整った環境で学んだ世代によって教育の現場は占められていく。そういった文脈において、教科書研究の重要性は増すと考えられる。

最初の検定を経た平成31年度導入発行者8者については、既に様々な教科書研究が行われてきており、例えば、各教科書に共通して収録されている共通資料や伝記資料に

着目した西口・渡邊(2021)<sup>(5)</sup>の報告や、諸々の内容項目や内容、例えば、情報モラル<sup>(6)</sup>、生命<sup>(7)</sup>、友情<sup>(8)</sup>、に特化して分析したものなどである。

現在は、令和5年度の検定を経た2巡目の教科書が導入されている。4年を経ての2巡目の検定までといえ、現場での使用感のフィードバック等も踏まえある意味改善等の時間もあったといえよう。そして、発行者は8者から7者となっている。

## ②畏敬の念の写真教材への着目

道徳の数ある内容項目の中で育てたい力の小学校と中学校の校種によるニーズ差について、中学校では、「よりよい学校生活」とともに「感動、畏敬の念」が他の内容項目よりも有意に高いとの報告がある<sup>(9)</sup>。

また、諸富祥彦(2007)<sup>(10)</sup>によって、「“畏敬の念”こそ、ほかのあらゆる道徳的価値を基礎づけ、価値づけるものだからです。“畏敬の念”なしでは、ほかのあらゆる道徳的価値がその価値の重みを失い、軽々しいものとなってしまいます。“畏敬の念”があってこそ、ほかのあらゆる道徳的価値がその価値としての重みを取戻すことができるのです。」と、他の内容項目と比しても、道徳教育における別格なものであるとの解釈がなされている。

その一方で、光田(2016)<sup>(11)</sup>は、「畏敬」の教育の困難と題し、「「畏敬」の特殊性から考えれば、それは確かに外部から教え込むことはできないだろう。ただ、覆い隠された「生」の傷つきやすさと同時に圧倒的な力を感じることによってのみ得られるにすぎない。もっと言えば、「生」を傷つけることに直面し、それを破壊する力に対する抑制としての「羞恥」を感じることを確かに経験することによってのみ、可能となるのである。…略…子どもたちに「畏敬の念」を培おうとすれば、いまだ不敬の彼らが「生」に向ける破壊的な力の前に、傷つきやすいその「生」を晒すことが必要となる。」とし、ボルノーを引いて「「畏敬」の教育はまさに、私たちに「最高の冒険を要求する」ものであるといえる。」とした。

そういった困難さがある「畏敬の念」に対する指導のあり方として、富岡(2020)<sup>(12)</sup>は、教科書の登場以前では、「心洗われる道徳資料に出会わせる」村田(1993)、「圧倒的な魅力、迫力、怖さを備えもった資料」諸富(2008)、「人のために献身的に尽くした人物、芸術作品、パラリンピックの選手、東日本大震災に関わることなどを取り上げ資料化への視点」行安(2012)を引いて、資料の重要性に賛同しつつも、「道徳の時間が道徳科となったことにより教科書の使用義務が発生したことで、今後開発する教材の活用には、その使用に関して若干の課題がある」と考える。もちろん、各自治体が作成した教材や自作教材の活用も考えられるが、教科書が主たる教材であることから、地域で採択さ

れた教科書を基本的に使用することになる。したがって、全ての畏敬の念に関する教材を自作の教材等に交換することは問題であると考え。教科書は、これまでの副読本と異なり国による検定を経た教科書であるため、教材の質は担保されているはずである。その教材を使用せず、教師の開発した教材を活用するとなれば、校内での議論が必要であろうし、教師個人の独断で決定すべきことではない。」としている。検定教科書となったことの重みである。

続けて、「教科書においては上記のような体験を供する教材は不可能なので紙面一杯をつかい自然の雄大さや神秘さを視覚的に訴える工夫をしている教材が多い。(イ)ただ、これらは確かに畏敬の念を培っていくうえでの工夫ではあるが、これのみによってねらいとする畏敬の念が育まれるものではない。(ロ)加えて、体験を想起させる場合は、学校行事等で全員の子供たちが体験をしていれば共通体験をしているので取り上げることに有効性はあるが、一部の子供しか体験していない事柄を想起させた場合には個人差が生じてしまう問題点もある。体験や疑似体験を生かすことや視覚的に訴えることは効果的ではあるが、それ自体は畏敬の念を育む上で本質的なことではない。やはり、畏敬の念を培っていくためには指導過程の在り方、特に、教師の問かけと学級集団での思考過程が重要になってくるのではないかと考える。(ハ)」と結んでいる。下線は筆者による。

筆者も同様に、指導のありようとしては下線(ロ)のように写真のみで育まれるものでもなく、下線(ハ)のよう

な指導が本質的であると考え。

ただ、畏敬の念の指導教材において、下線(イ)のように視覚教材を指摘し、更に同報告の(註)にて、発行者2者の全面写真事例を示して、「「畏敬の念」を扱った教材では写真を多用する傾向が他社の教科書に見られる。」としているように、同内容項目においては写真の扱いが特徴であり着目点であるといえる。

### ③本報告

以上を踏まえ、他の内容項目と比して指導が難しくかつ別格ともされニーズもある「感動、畏敬の念」について、本報告では教科書における写真の扱いに着目する。検定2巡目の教科書を対象とし、内容項目「感動、畏敬の念」の写真に着目した教科書研究の報告は見当たらない。

本報告では、教科書研究として令和5年度検討済の教科書7者全21冊を対象として、内容項目「感動、畏敬の念」に関する教科書での写真について、量的・質的にこれら进行分析し、実態を明らかにする。そして、諸視点から考察を加えていくことで、あらためて畏敬の念を教科書で扱う際の示唆を得ていきたい。

## 2. 全内容項目の写真の扱い

内容項目「感動、畏敬の念」における写真使用の状況が具体的に他の内容項目と比べてどういった状況にあるのかを把握するために、まずは、全内容項目における写真使用状況を把握し、その中での「感動、畏敬の念」の特徴を描き出す。

表2 各教科書における内容項目別の写真使用教材一覧

教科書と 学年	内容項目																						教材数
	A1	A2	A3	A4	A5	B6	B7	B8	B9	C10	C11	C12	C13	C14	C15	C16	C17	C18	D19	D20	D21	D22	
a1	0/0	0/0	0	3	4	0/0	0	0/0	0/3	0/3	0/1	0/2	8/2	0	0	1/4	3	3	0/1/0	9	4	0/0	35
a2	0/0	2/3	0	0	2	1/0	0	0/0	2/1	0/0	0/3	5/1	0/3	0	1	3	4/4	3	6/0/0	4	1	0/0	35
a3	0/0	0/0	2	0	3	0/0	0	0/0	0/3	0/0	3/0	0/0	0/0	0	0	6	3	6/7	0/0/0	1	3	3/0	35
b1	0/0	0/0	5/0	4	7	0/5/0	0	0/0	0/2	0	0/0	0	0	0/5	0	0/7	2	5	0/6/0	6	5	0/0	35
b2	0/0	0/0	5/3	2	4	0/0	0	0/0	0/0	0/0	0/3	4/4	3	0	0	2/3	3	2/3	2/3	6	2	3/0	35
b3	0/0	0	2/0	4	3	0	0	0/0	0/1	0	0/0	7/7/2	0	1	0	3	2/2	3	2/2	6/2/5	2/0	0/0	35
c1	0/0	0/0	0	5	0	0/0	0	0/0	0/6	0/0	0/0/2	0	4	5	0	3	0	0	3/3/5	5	4/6	0/3	33
c2	0/0	0	0/0	2	3	0	0	0/0	0/0/1	0/0	4/0/0	4	1	4	0	3	5	5	4/0/0	11	4	0/2	33
c3	0/0	1	0/3	2/2	5/0	0	1	0	0/4/0	0	0/0/0	1	9	6	0	4	3	5	5/0/0	2	3	0/0	33
d1	0/0	0	7/0	1	2	0/0	0	0/0	0/0	0/1	0/0	0/8	3	0	0	4/4	2	0/0	0/2/0	4/2	2	0	35
d2	0/0	0	4	4	3	0/0	0	0/0	0/0	2	0/0	4/2	0/2	0	1	0	0/5	1/6	0/3/4	4/2	4	3/0	35
d3	0/0	0	0/1	3	2	3/3	0	0/0	6	0/0	0/0	5/1/0	0/5	0	1	1	4	2/3	0/2/5	3	1	3/0	35
e1	0/0	12/2	2	6/5	4	0/0	0	0/0/0	0	0/3	0/1	0	0	0	1/6	10	6	1/4	1/4/3	5	2	3/3	35
e2	3/0	3/0	7	4	3/9	0/0	0	0/0	2/0	0/0	0	4/6	0	0	0/5	2	7	5	9/0/3	2/5	9	4/0	35
e3	1/5	2/1	6	5	3/8	0/0	0	0/5	0/0	2/0	1/0	5/1	7	0	0	12	6	2/6	1/0/0	3	6	0/4	35
f1	0/0/0	0	0	4/0	1	0/0/0	0	0/5	0	0/0	0/0	0	3	0/0	0	3	23	4	0/0/0	5	3	0/0/0	35
f2	0/2/0	0	0	5/3	1	0/0/0	0	0/0	5	0/0	0/0	0	0	0/0	0	4	3	8	1/0/2	7	3	0/0/1	35
f3	0/0/0	2	2	3/3	7	2/0/0	0	0/0	5	4/0	0/6	9	3	0/0	0	6	3	2	0/2/0	5	1	0/0/0	35
g1	0/0	0	1	5/4	0/0	0/0	5	0/0	0/0	0/0	0/3	2/1	5	0	0	3	5	8/1	0/1	2	2	2/1	34
g2	0/1	0	0	3/1	0	1/0	0	0/0	0	2/0	0/8	0/0	2	0/0	0	3	3/6	4/4	1/0	3	2	0/0	34
g3	0/4	2	2/0	0/9	1/0	0/0	4	0/0	3/0	0/2	3/0	2	0/6	0/2	0	3	2	1/0	0	1	3	4	34
教材数	45	30	29	29	26	43	21	41	38	38	44	35	27	27	23	25	25	31	57	26	23	43	726
写真あり	6	11	15	25	20	6	3	2	14	8	12	23	16	6	6	23	23	27	28	26	22	13	335
項目写真率	13.3%	36.7%	51.7%	86.2%	76.9%	14.0%	14.3%	4.9%	36.8%	21.1%	27.3%	65.7%	59.3%	22.2%	26.1%	92.0%	92.0%	87.1%	49.1%	100%	95.7%	30.2%	46.1%
視点写真率	53.0%					17.5%					54.7%					68.8%							

### ①全内容項目の分析

本報告では、令和5年度検定済の7社21冊の教科書 ※2) を用い、22の内容項目に対応したそれぞれの教材について、写真使用の有無をまとめ、全体における写真使用の傾向について把握することとし、表2を完成した。

表2に関する作成時の留意事項や表の見方については以下のとおりである。

- ・写真点数の数え方について
- ・写真は大小関係なく1点ずつ数えている。
- ・挿絵は対象外としている。
- ・文章著者紹介の小さな顔写真は対象外としている。
- ・物品やカード・書類の実物写真も数えているが、マンガの内容そのままの写真引用は対象外としている。
- ・対象としたのは、内容項目に対応した主たる教材ページを対象とし、例えばa者の「付録」、c者の「まなびをプラス」、f者の「Thinking」などの補足的なページ、補足教材や単元区切りの見開きページ、等々については対象としていない。これは、表2以降の表においても同様である。
- ・表2の見方
- ・発行者と記号対応は ※2) を参照。
- ・発行者a者の場合、中学1年の教科書をa1と記している。
- ・内容項目の記号対応は ※3) を参照。
- ・表中の数字は、教材で扱われた写真の点数である。
- ・例えば、表中0/5/2 の表記は、同じ内容項目で3教材あり、1教材目の写真の数が0点、2教材目が5点、3教材目が2点 を意味している。
- ・黄色は、写真を用いていない内容項目の教材である。
- ・淡青色は、同じ内容項目で複数教材を扱うものの、写真を扱う教材と扱わない教材が混在することをさしている。
- ・「項目写真率」とは、同じ内容項目で写真が用いられた教材数を全教材数で除したものである。例えば内容項目A1については、全教科書の中に45教材があり、その内写真を用いた教材が6教材であり、A1の全教材中13.3%が写真を用いた教材であることを指している。
- ・「視点写真率」とは、
  - A主として自分自身に関すること
  - B主として人との関わりに関すること
  - C主として集団や社会との関わりに関すること
  - D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
 の4つの視点ごとで写真が用いられた教材数を全教材数で除したものである。

### ②表2の読み取り

- ・量的な読み取り
- ・全21冊で726教材を扱い、その内、335教材が写真を扱っており、その割合は46.1%である。

- ・「項目写真率」75%以上を写真使用が多いとみなすと、内容項目：

- A4 (希望と勇気, 克己と強い意志)
- A5 (真理の探究, 創造)
- C16 (郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度)
- C17 (我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度)
- C18 (国際理解, 国際貢献)
- D20 (自然愛護)
- D21 (感動, 畏敬の念)

の7項目が該当する。

- ・D19 (生命の尊さ) については、28教材と実数は多いものの、全体教材数が多いために49.1%となっている。
- ・最も少ないのがB8 (友情, 信頼) である。
- ・4つの視点では、B主として人との関わりに関することが17.5%で最も低く、D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関することが68.8%と最も高い。

### ・読み取りへの言及

- ・A4-A5について

用いられている写真は、背後に或るものをイメージし連想することを求めるものではなく、いずれも文言で表現された内容を具体的に知り理解するためのものである。例えば、A4のb1者「どうせ無理をなくしたい」において、ロケットづくりに取り組む植松務氏を取り上げているが、同氏の写真やロケットや工場施設の写真、A5のa2者「できないには価値がある」において、分身ロボット開発に取り組む吉藤オリイ氏を取り上げているが、同氏の写真やロボットやロボット活用の写真などである。

- ・C16-C18について

A4-A5同様に、用いられている写真は対象となる地域の風景や伝統行事の様子や国際貢献の活動の様子など、その内容を具体的に知り理解するためのものである。例えば、C16のg2者「脈々と受け継がれる錦帯橋」において、錦帯橋の遠景と近景や西湖遊覧志の挿絵の写真が用いられているが、それがどういったものであるか、そもそもそのものを知らなければ内容理解が進まない内容項目である。そういった意味で、後述するD21とは性格が異なる写真の使い方である。

- ・D20 (自然愛護) について

例えばf3者の「襟裳のこと」では襟裳の開拓による自然破壊と再生事業に関する内容で、緑化事業やクロマツ保護などの具体的な様子の写真、e3者の「赤道直下にすむマウンテンゴリラ」では1ページ全面写真の森の中のゴリラの写真、そして文中内容に対応した母ゴリラと赤ちゃんゴリラの写真など、文章内容に具体的にに対応した写真がある一方で、g2者の手塚治虫の「ガラスの地球を救え」では、宇宙から撮影した地球の水平線上から太陽が浮かび上がら

んとする写真や月から撮影した地球の写真が用いられているが、写真そのものへの言及はなく、広く地球をイメージさせるための写真、後述する D21 での写真の扱いのようなものが混在している。

「項目写真率」100%であり、また、視覚に訴え印象を持たせる 1 ページ全面写真といった使いかたもされているなど、D21 の伏線となり連携となることがうかがえる。

- ・ D21 (感動, 畏敬の念) について以降で扱う。

### 3. 「感動, 畏敬の念」の写真の扱い

#### ①分析のための3つの表

表3 ページ総面積に対する写真割合

発行者 学年	タイトル	ジャンル	版	ページ 数	総面積 割合
a1	火の鳥	自然風景	AB版	6	52.4%
a2	夜は人間以外のものの時間	宇宙・空	AB版	5	40.0%
a3	ハッチを開けて、知らない世界へ	宇宙・空	AB版	5	29.9%
b1	オーロラの向こうに	宇宙・空	B5版	7	65.9%
b2	ハッチを開けて、知らない世界へ	宇宙・空	B5版	3	71.1%
b3	もう一つの時間	生き物	B5版	5	19.8%
c1	命の木	樹木	B5版	5	51.1%
c2	宇宙の始まりに思いを寄せて	宇宙・空	B5版	5	52.8%
c3	サグラダ・ファミリア	建築	B5版	4	29.2%
d1	オーロラ 光のカーテン	宇宙・空	B5版	4	63.9%
d2	樹齢七千年の杉	樹木	B5版	6	52.7%
d3	星空を届けたい	宇宙・空	B5版	6	21.9%
e1	自然の懐に抱かれて	自然風景	AB版	4	23.9%
e2	厳かなるもの	樹木、風景、芸術	AB版	4	40.7%
e3	ルリボシカミキリの青	生き物	AB版	4	18.8%
f1	ガジュマルの木	樹木	B5版	6	50.1%
f2	樹齢七千年の杉	樹木	B5版	6	23.6%
f3	メジロ	生き物	B5版	6	2.8%
g1	ほっちゃんれ	生き物	AB版	4	15.5%
g2	縄文杉に会いたくて	樹木	AB版	4	8.6%
g3	不思議な光景	宇宙・空	AB版	6	16.0%

#### ・表3の見方

- ・ 発行者学年順に内容項目でのタイトル, ジャンル, 教科書サイズ, ページ数, そして, 内容項目のページ総面積に占める写真の面積割合を総面積割合として示している。例えば, a1 の 52.4%とは, 4点ある写真の合計面積, 1698 (=268.8+413.7+413.7+601.8) cm<sup>2</sup>を, AB版のページ面積 539.7cm<sup>2</sup>×6 ページで除したものである。
- ・ 各教科書の内容を筆者が判断して以下の名称のジャンルで括っている:  
「自然風景」, 「宇宙・空」, 「生き物」, 「樹木」, 「建築」, 「樹木, 風景, 芸術」
- ・ 表4の見方
- ・ 表3の内容を学年順にソートし, 見開き全面写真, 1 ページ全面写真の有無を示している。
- ・ 学年割合とは, 全者学年ごとの内容項目のページ面積に

占める写真の割合 (総面積割合) を示している。

表4 写真割合と全面写真 学年順

発行者 学年	ジャンル	総面積 割合	学年 割合	版	見開き 全面 写真	1ページ 全面 写真
a1	自然風景	52.4%	46.1%	AB版		
b1	宇宙・空	65.9%		B5版	○	
c1	樹木	51.1%		B5版	○	
d1	宇宙・空	63.9%		B5版	○	
e1	自然風景	23.9%		AB版		
f1	樹木	50.1%		B5版	○	
g1	生き物	15.5%		AB版		
a2	宇宙・空	40.0%	41.4%	AB版	○	
b2	宇宙・空	71.1%		B5版	○	
c2	宇宙・空	52.8%		B5版	○	
d2	樹木	52.7%		B5版	○	○
e2	樹木、風景、芸術	40.7%		AB版		
f2	樹木	23.6%		B5版		○
g2	樹木	8.6%		AB版		
a3	宇宙・空	29.9%	19.8%	AB版		
b3	生き物	19.8%		B5版		
c3	建築	29.2%		B5版		○
d3	宇宙・空	21.9%		B5版		
e3	生き物	18.8%		AB版		
f3	生き物	2.8%		B5版		
g3	宇宙・空	16.0%		AB版		

#### ・表5の見方

- ・ 内容とは, 写真の内容を筆者が描写したものである。
- ・ 割合とは, その写真が 1 ページの面積に占める割合を指している。a1 の 112%, d3 の 131% など 100% を超えているのは, 1 ページ面積より大きい面積の写真がページをまたいでいることを示している。
- ・ 黄色は 1 ページ全面使用 100%, 見開き全面使用 200% を指している。
- ・ 緑色は, 1 ページ割合 50% を超える写真である。
- ・ 赤字は, 1 ページ割合 25% 以下の写真である。

#### ②表3～表5の読み取り

- ・ 量的な読み取り
- ・ 総面積割合で, 50% を超えているのが 8 冊であり 7 者全てが該当している。最大が b2 の 71.1%, 最小が f3 の 2.8% のメジロである。
- ・ 学年割合では, 中学 1 年の 46.1% が最高で, 中学 3 年で 19.3% まで落ちる。
- ・ ジャンルの割合は,  
「宇宙・空」 8 冊 38.0%  
「樹木」 5 冊 23.8%  
「生き物」 4 冊 19.0%  
「自然風景」 2 冊 9.5%  
「建築」, 「樹木, 風景, 芸術」 各 1 冊 4.8%
- ・ 21 冊中 5 冊がジャンル「樹木」を扱うものの, 中学 3 年

表5 写真の内容

発行者	ジャンル	内容	割合
a1	自然風景	海に流れ落ちる溶岩	50%
		日没後の溶岩が光る様子	77%
		徐々に冷え固まる溶岩	77%
		クレータから噴煙が上がる様子	112%
a2	宇宙・空	日没後の遠景に山、青紫に染まる雲を捉えた空の様子	200%
a3	宇宙・空	宇宙から見た地球	23%
		スペースシャトルと国際宇宙ステーションのドッキング	87%
		船外活動する野口聡一氏	40%
b1	宇宙・空	赤と緑のオーロラ	200%
		マッキンリーとその前で両手を挙げた筆者の後ろ姿	48%
		雪に埋まったテントを掻き出す作業	13%
		極北マイナス50度でのキャンプ夜営	200%
b2	宇宙・空	イグルーと上空に緑色のオーロラ	22%
		漆黒の宇宙から見た地球	200%
b3	生き物	船外活動する野口聡一氏	13%
		ヒゲマの親子	18%
c1	樹木	クジラのプリーチング	81%
		屋久島の全景	18%
		原生林から流れ出る滝	10%
		屋久島の原生林	28%
c2	宇宙・空	縄文杉	200%
		観測結果をもとに描かれたヒミコ	200%
c3	建築	サグラダ・ファミリア	100%
		外尾さんが彫った「植物の芽」	11%
		外尾悦郎	3%
		ガウディ	3%
d1	宇宙・空	オーロラと木々	55%
		オーロラ 山と	200%
d2	樹木	白谷雲水狭	200%
		縄文杉までの不使用トロッコ	10%
		杉の実	6%
		縄文杉	100%
d3	宇宙・空	ブラネタリウムドームに投影された星空	131%
e1	自然風景	燕岳の山頂から見た朝日	65%
		ウユニ湖にかかる天の川	31%
e2	樹木、 風景、 芸術	川古の大楠	36%
		鳴門の渦潮	21%
		西之島の噴煙	11%
		アオツラカツオドリ	2%
		水面に浮かぶサガリバナ	44%
		石垣島のサガリバナ	16%
		河口湖畔から望む富士山	21%
		富嶽三十六景の神奈川沖浪裏	5%
横山大観の霊峰飛鶴	6%		
e3	生き物	フェルメールの真珠の首飾りの少女	9%
		ラピスラズリ	15%
		ツタンカーメンのマスク	9%
		ルリボシカミキリ	16%
		地球	14%
f1	樹木	りん粉	12%
		タ・ブローム	19%
		タ・ブローム遺跡を飲み込むガジュマルの木	200%
f2	樹木	アンコールワット夕日	81%
		トロッコ線路	32%
		縄文杉	100%
f3	生き物	杉の実	9%
		メジロ	17%
g1	生き物	遡上する鮭	39%
		ほっちゃんれ	23%
g2	樹木	屋久杉の薄暗い森	13%
		縄文杉	22%
g3	宇宙・空	アポロ11号月面着陸	18%
		太平洋に着水した宇宙船	26%
		月面から地球を望む	53%

では扱っていない。これに対して「生き物」は4冊中3冊が中学3年で扱っている。

- ・教材文の重複は
  - ・ 椋鳩十の「樹齢七千年の杉」で d2 (52.7%) と f2 (23.6%)
  - ・ 「ハッチを開けて、知らない世界へ」の a3 (29.9%) と b2 (71.1%)

であり、同じ題材でも写真の面積割合に開きがある。

- ・ 芸術を除く人工物としては、a3 と b2 の「ハッチを開けて、知らない世界へ」において宇宙空間にある宇宙船の画像があるものの、対象としているのは宇宙であり、人工物そのものを対象としたのは、ジャンルを「建築」とした c3 でサグラダ・ファミリアの1件のみである。

- ・ 芸術作品
  - e2 が唯一ジャンルとして「樹木、風景、芸術」と複合的な内容となっており、富嶽三十六景の「神奈川沖浪裏」、横山大観の「霊峰飛鶴」の2つの絵画、e3 がフェルメールの「真珠の首飾りの少女」の絵画を扱っており、全3点 e 社のみである。

- ・ 見開き（左右両頁）全面写真については、a2, b1, b2, c1, c2, d1, d2, f2 が扱い、1 ページ全面写真は、c3, d2, d2 が扱い、学年別では中学1年4冊、中学2年6冊、中学3年1冊となっている。

- ・ 全面写真については、中学3年の「建築」を除けば全て「宇宙・空」「樹木」である。

- ・ 「生き物」とジャンル分けした教材では動物や昆虫などの生き物が題材として扱われていたが、全面写真としては扱われたものはなく、総面積割合いずれも20%未満である。

- ・ 表5の赤字のページ25%以下の写真は、内容の説明として具体物を1対1対応で指し示すものが殆どである。

- ・ 読み取りへの言及

- ・ ジャンルとして「宇宙・空」としたものは、総じて空間的な広がりやスケール観といったものにつながる内容であり写真である。総面積割合でみると、中学1年では2者が扱い、65.9%、63.9%と同様に高くかつ両者とも見開き全面使用がある。中学2年では3者が扱い40%、71.1%、52.8%と割合幅があるものの、3者とも見開き全面使用がある。しかしながら、中学3年では3者が扱っているものの、全面使用はなく、それぞれ29.9%、21.9%、16.0%と小さくなっている。同様のジャンルでも中学1、2年と中学3年の発達と理解力の差の想定がうかがえる。

- ・ ジャンルとして「樹木」とした5冊の内、屋久島・縄文杉が4冊、残りの1冊がガジュマルの大樹が絡みついた遺跡のタ・ブロームである。無論、植物という生命といった観点や森が持つ神秘性等諸々もあろうが、「宇宙・空」

が空間的なものであるとすると、壮大な時間軸を感じさせるものといえる。中学1年では2者が扱い、51.1%、50.1%で同様に高くかつ両者とも見開き全面使用がある。中学2年では3者が扱い52.7%、23.6%、8.6%と割合幅があり、全面使用が2冊である。しかしながら、中学3年では扱いがない。1年生から2年生へと写真使用の状況が下がりばらついていくのは「宇宙・空」と同様である。

- ・ 全面写真が「建築」のサグラダ・ファミリア以外、「宇宙・空」と「樹木」になっているのは、空間的、時間的に壮大につながりものを扱っていると言える。

#### 4. 視点

##### ① 「私たちの道徳」での扱いと対比して

現在の各学年1冊といった分量で対応できるページ数ならびに写真掲載の容量に対し、「私たちの道徳」<sup>(13)</sup>は、3年間の内容を1冊でまとめているので、コンパクトに凝縮した体裁に映る。「美しいものへの感動と畏敬の念を」を4ページで構成し、1ページ目にページ1/3程度の大きさで屋久島の杉がある森の写真が掲載されており、その後残り3ページで：

- ・ 自然の恵み
- ・ 自然の美しさ
- ・ 人間の力を超えるもの
- ・ 自然の神秘を感じる
- ・ 自然との調和

と小題を振り、その小題に関連の写真を添えている体裁である。同書では屋久島の森そのものに対する言及はないが、教科書では7者の内、c1、d2、f2、g2と4冊が屋久島の縄文杉と森を扱っている。

小題「自然の恵み」では、米俵の写真と田植えの写真であったが、この度の教科書の写真でこれに類した写真はなかった。

小題「自然の美しさ」では、富士山の遠景・近景等、計3枚全てが富士山の写真であったが、この度はe2の「樹木、風景、芸術」にて河口湖畔から望む富士山の1枚のみであった。

小題「人間の力を超えるもの」では、「自然は美しさを見せる一方で、台風や豪雪、地震、火山の噴火といった人間の力では抗うことのできない猛威を振るうこともある。」の文と共に、台風の日、白川郷の豪雪、火山の噴火といった猛威につながる写真を載せている。

この度の教科書では、猛威と直結する写真はどれだろうか。a1が、ハワイのキラウエア火山の溶岩を扱っているものの、「自然を敬う古代ハワイアンがこの光景に神の姿を見、おそれおののいたのは当然だ。ほくは、ここが地球

上で最も神聖な場所だと確信した」との文章のように、その写真の見せ方は人間社会への直接の危険性を連想させる猛威という見せ方とは違って、神秘的かつグロテスクでもあり美しくもある自然の姿のような写真である。写真有り教材22の内、唯一該当するものとして、b1にてオーロラ写真を撮ることについて、「…しだいに、自然の猛威が牙をむいてきた。大雪が降り、風が吹き荒れた。あつというまに、荷物を入れていたテントが埋まってしまった。…」と、アラスカの氷河の上で豪雪でのテントが埋まった写真やイグルーの写真があげられる。そういった意味で、「猛威」の扱いは21冊全体としては、かなり少ない扱いと言える。

小題「自然の神秘を感じる」のページでは、「人間の力を超えるもの」と同じ配置で猛威以外の写真として、水平線上の太陽と大湿原を蛇行する川の2枚の写真がある。前者は教科書でジャンル分けした「宇宙・空」につながり、後者が「自然風景」に相当する。

小題「自然との調和」では、コウノトリ野生復帰プロジェクトを扱い、コウノトリの飛翔の姿と数十羽の野生のコウノトリの群れの2枚の写真を扱っている。教科書では、コウノトリ事例の扱いはない。

このようにしてみると、数冊の教科書でも扱われるほど屋久島の縄文杉は題材としての強さがあるといえるが、その他については、猛威の扱いも少なく、富士山の写真を多用することもなく、「宇宙・空」の扱いが増えるなど、畏敬の念の扱いにおいて、教科書は「私たちの道徳」との違いを見せている。

##### ② 学習指導要領解説 「感動、畏敬の念」指導の要点

学習指導要領解説<sup>(14)</sup>「感動、畏敬の念」の指導の要点の内容に照らして考察してみる。文中下線は筆者が行っているものである。

「小学校の段階では、特に高学年で、文学作品、絵画や造形作品などの美術、壮大な音楽など(ニ)美しいものとの関わりを通して、感動したり尊敬や畏敬の念を深めたりすることで、人間としての在り方をより深いところから見つめ直すことができるよう指導を行っている。

中学校の段階では、入学して間もない時期には、すばらしい自然の美や芸術、品格のある気高い人間の生き方に触れることを通して、豊かな感受性が育ってくる。(ホ)

学年が上がるにつれて、美的な情操が豊かになり、感動する心が育ち、自然や人間の力を超えたものに対して美しさや神秘さを感じ、その中で癒やされる自己に気付くようになる。(ニ)

下線(ニ)にあるように、小学校では人間が創作したものを対象として、美術や音楽の芸術を扱うとし、中学校でも下線(ロ)で自然の美と芸術と示されている。ただ、教科書で芸術写真を扱っているのはe者のみであり、全教科

書を通して同者の3点の絵画のみであった。e者とg者以外は、巻末等に内容項目と対応した教材名や他教科との関りが示されており、両者を除く5者15冊の内、筆者がサグラダ・ファミリアを扱う同内容を「建築」とジャンルわけしたc3のみが美術との関りを示していたのみであった。

ところが、d1においてこの度の写真分析の対象外とした「ミニ教材で考えてみよう」という補足的ページで、美しいものに感動する心「難しい宿題」と題した内容が扱われ、巻末に美術との関わりが示されていた。ここでは、「感動、畏敬の念」の「感動」が切り離して扱われている。同様に、c1の分析対象外とした「まなびをプラス」ページの「感動の本質を探ろう」と題した内容も、「感動」を切り離して扱っており、国語、理科、音楽、美術、保健体育との関わりが示された。d1, c1ともに、いずれも中学1年を対象で、感動することそのことへの心の解しのようなワンステップであり、難しいとされる畏敬の念の指導において、注目されてよい取り組みといえる。

下線(ホ)が示す中学校低学年において「自然の美」「豊かな感受性」の文言が出てくる。全教科書を対象としたときの写真使用割合、特に中学1年で46.1%と最大であったことや見開き全面写真が多いこと、表3や表4が示した写真が対象としたものが対応しているといえる。そして、中学3年で写真19.3%まで落ちているのは、文字情報から読み取り感じ取ることができること、下線(ヘ)に対応した能力が備わってきていることに対応していると考えられる。

b3の「カムイモシリとアイヌモシリ」は、内容項目「感動、畏敬の念」で唯一、写真を用いていない教材である。アイヌ文化、アイヌの世界観2ページにわたる本田優子による挿絵が用いられている。そして、教材の扱いの順番の自由度は各校にあるものの、中学3年の同書での順番では35番目の教材として振られている。形式的には中学校で学習する最後の道徳教材のような配置であることは、発達的にも満ちた段階で、指導が難しく別格とも形容される畏敬の念を落とし込めるという指導の集大成的な位置づけとも捉えることができる事例である。

### ③教科「理科」との関わり

「特別な教科」化の前、平成26年から令和元年までの「私たちの道徳」の活用のための指導資料(中学校)では、活用場面例として、道徳の時間、理科2分野、総合的な学習の時間の3つが示され、教科としては理科のみであった<sup>(15)</sup>。

巻末等に内容項目と対応した教材名や他教科との関りが示した5者15冊の内、11冊が理科との関わりを明示している。

### ④QRコード 動画・写真

表6は、各教科書での、QRコードとその接続先の一覧である。すべての内容がQRコード対応しているわけではないが、動画と写真併せて13件である。プロジェクター

や大型モニターが自在に使える環境下、教員や学校が用意する動画や写真の使用もあろうが、教材探しの手間暇といった観点からも、著作権などもクリアした視覚に訴える情報ソースが準備されていることは大きい。

より望ましい写真素材等は、理科との連携のなかでも深められよう。

表6 教科書におけるQRコード

発行者学年	タイトル	QRコード 動画	QRコード 写真
a1	火の鳥	ハワイを流れる溶岩	
a2	夜は人間以外のものの時間	-	
a3	ハッチを開けて、知らない世界へ	宇宙で船外活動を行う野口聡一さん	
b1	オーロラの向こうに	アラスカのオーロラ	
b2	ハッチを開けて、知らない世界へ		
b3	もう一つの時間	クジラのブリーチング	
b3	カムイモシリとアイヌモシリ	-	
c1	命の木	-	杉画像5点
c1	「感動」の本質を知ろう		
c2	宇宙の始まりに思いを寄せて	-	-
c3	サグラダ・ファミリア	-	サグラダファミリア画像4点
d1	オーロラ 光のカーテン	イエローナイフのオーロラ	自然の写真
d2	樹齢七千年の杉	-	さまざまな風景(自然の写真)
d3	星空を届けたい		
e1	自然の懐に抱かれて	-	-
e2	厳かなるもの	西之島	-
e3	ルリボシカミキリの青		
f1	ガジュマルの木	アンコール・ワットとタ・プローム	-
f2	樹齢七千年の杉	屋久島と縄文杉	-
f3	メジロ	-	-
g1	ほっちゃんれ	-	鮭の一生4枚
g2	縄文杉に会いたくて	-	-
g3	不思議な光景	-	-

### ⑤経験知と今後

7者×3学年、21冊の教科書において選ばれた題材であり写真を量的にも質的にも確認した。広大な宇宙や空の写真や主として屋久島の樹木など似通った写真や題材が選ばれているところもあったが、ヴァリエーションも確認された。その全体的な特徴と傾向は、これまで我が国での道徳教育において蓄積されてきた教材やノウハウの資産の延長にあり、各者が一点一点を選んできたという判断、そして検定という判断の総体の結果として示されていると言える。

以上の状況を、畏怖・畏敬の念に相当するaweの基礎研究を脳、身体、心の観点から進めている高野(2024)<sup>(15)</sup>高野(2025)<sup>(16)</sup>の知見を参考に捉えてみる。

高野が心理学での理論的枠組みとしてKeltner & Haid(2003)を引いた「広大さの知覚(perception of vastness)」と「調節の必要性(need for accommodation)」に照らせば、「宇宙・空」や「建築」の大きなサグラダ・ファミリアは物理的スケール、「樹木」としたものは時間的スケールといった広大さの知覚にある意味単純に対応しているといえよう。写真の全面使用はそれを一層後押しする使い方であろう。そういった意味で、これら教材や写真が選ばれかつ割合が多かった必然を確認できる。では、「生き物」が対象としたメジロやルリボシカミキリや鮭はどうだろうか。物理的な広大さではない。だから全面使用の事例はなかった。かといって、それらに広大さの知覚が全くないのかと

いえば、生命が引き継いできた時間的スケールや自然の大きさといった高度な意味での解釈からあり得ようし、他方で、それまで知りえなかった繊細な仕組みや事実を知ることと調節の必要性につながるものとも考えられる。教師がどちらの立ち位置で、あるいは両方を刺激するような問いかけをするかなど、awe 研究の視点をもって教材や写真を捉えることもできよう。

また、先に示した a1 でのハワイの溶岩の写真など神秘性と捉え得るとも、ただ、単純な脅威とは捉えにくい脅威とは捉えられるかなど、筆者の解釈でこういった表現も揺れてしまう。これに対し、美しさや審美性につながる Positive-awe に対応しているのか、脅威の知覚につながる Threat-awe なのかを測定することも可能となってきた。実際には、それがどちらに対応するのか、それまでの個人の経験や個人が有している認知的枠組み、文化的背景によって異なるのであろう。ただ、実際に脳の活動を fMRI で測定してみることも可能となっている。

指導が難しいとされる畏敬の念にとってどんな視覚教材が好ましいのか、これまでの経験知から得られてきたものについて awe 研究の知見や手法から捉え、検証や裏付けを行い開発していくことが望まれる。

## 5. まとめ

同一の内容項目で写真が用いられた教材数を全教材数で除した割合が、「感動、畏敬の念」では 98.8% であり、同項目における写真利用が多いことが確認された。また内容項目の 4 つの視点では、同項目が内包されている D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関することも 68.8% と最も高かった。これは内容項目「自然愛護」と共に自然を対象としていることからの特徴である。そして、多くの教科書で理科との関りが示された。

「感動、畏敬の念」の写真使用については、ページの全面使用などでインパクトをもたらす写真がある一方で、内容を具体的に指し示して説明する啓蒙的な使い方も多く、それらは 1 ページあたりにしめる写真面積が小さいことがうかがえた。

扱う内容は、空間的な広さ大きさを扱っている「宇宙・空」とジャンル分けしたものが 8 冊 38% と最も多く、「樹木」が 5 冊 23.8% と両方で 13 冊 61.9% となる。一方、芸術の写真の扱いは全体で 1 者 3 点のみと極端に少なかった。ただ、「畏敬の念」と「感動」を分けて「感動」のみの指導を行い、美術との関りを示したものが 2 冊あった。

また、中学 1, 2 年での画像の占める割合やページ全面使用の割合が高く、中学 3 年になると写真の割合が下がるなど、ある意味、発達に対応した必然を確認した。

今後は、awe 研究の知見や手法も踏まえた教材や視覚教材の検証や開発が望まれる。

## 文 献

- (1) ㈱パデコ『令和 3 年度 道徳教育実施状況調査 報告』 p.25 (2023)
- (2) 村末勇介「『特別の教科 道徳』の教科書教材と授業展開に関する一考察」『高度教職実践専攻（教職大学院）紀要』3 pp.135-146 (2019)
- (3) 前掲 (1) p.39
- (4) 寺脇研『危ない「道徳教科書」』宝島社 p.87 (2018)
- (5) 西口啓太・渡邊言美「中学校における「特別の教科 道徳」の教科書分析 - 「内容項目」との関連および小学校との比較検討 -」『就実教育実践研究』第 14 巻 pp.83-99 (2021)
- (6) 相澤 崇 他「中学校道徳科の検定済教科書における情報モラル教材の特徴分析」『教材学研究』第 31 巻 pp.57-65 (2020)
- (7) 関根宏朗「道徳教育において「生命」を問うこと - 中学校教科書の実態に即して考える -」『明治大学教職課程年報』44 巻 pp.29-38 (2022)
- (8) 歌川光一「中学校道徳教科書の読み物にみる友情のジェンダー表象」『昭和女子大学女性文化研究所紀要』第 46 号 pp.97-105 (2019)
- (9) 小柴孝子 他「道徳の教科化にむけての小・中学校教員のニーズ調査」神田外語大学紀要第 29 号 p.521 (2017)
- (10) 諸富祥彦『人間を超えたものへの「畏敬の念」の道徳授業 中学校 道徳授業を研究するシリーズ 6』明治図書 (2007)
- (11) 光田尚美「道徳教育における「畏敬の念」」『近畿大学教育論叢』27 (2) pp.19-32 (2016)
- (12) 富岡栄「道徳科における「畏敬の念」の指導のあり方に関する研究」『道徳教育学研究』1 pp.73-84 (2020)
- (13) 文部科学省『私たちの道徳 中学校』(2014)
- (14) 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科道徳編』平成 29 年 7 月 (2017)
- (15) 文部科学省『私たちの道徳 中学校 活用のための指導資料』pp.68-69 (2014)  
[https://doutoku.mext.go.jp/pdf/junior\\_high\\_school\\_moraltxt.pdf](https://doutoku.mext.go.jp/pdf/junior_high_school_moraltxt.pdf)
- (16) 高野亮太「畏敬の念を「測る」には—主観・行動・生理指標の統合的理解を目指して—」『エモーション・スタディーズ』第 9 巻第 1 号 pp. 89-94 (2024)
- (17) 高野亮太「日本野外教育学会第 7 回研究集会「畏敬の念」について考える」、『野外教育研究』28 巻 pp.145-157 (2025)

注

※1) 文部科学省による平成26年度の「私たちの道徳」活用状況等調査結果によると、中学校での使用率が98.4%であり、他の教育委員会作成教材、民間教材等々と比しても高い使用率であった。また、教員の自主教材の使用率は65.7%であった。

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/doutoku/icsFiles/afeldfile/2016/08/09/1222218\\_4.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/icsFiles/afeldfile/2016/08/09/1222218_4.pdf)

※2) 記号と教科書

発行者記号	発行者名	番号	教科書名
a	東京書籍	002-72	新編新しい道徳1
		002-82	新編新しい道徳2
		002-92	新編新しい道徳3
b	教育出版	017-72	とびだそう未来へ 中学道徳1
		017-82	とびだそう未来へ 中学道徳2
		017-92	とびだそう未来へ 中学道徳3
c	光村図書	038-72	中学道徳1 きみがいちばんひかるとき
		038-82	中学道徳2 きみがいちばんひかるとき
		038-92	中学道徳3 きみがいちばんひかるとき
d	日本文教出版	116-73	中学道徳 あすを生きる1
		116-83	中学道徳 あすを生きる2
		116-93	中学道徳 あすを生きる3
e	学研	224-72	新版 中学校の道徳 明日への扉1
		224-82	新版 中学校の道徳 明日への扉2
		224-92	新版 中学校の道徳 明日への扉3
f	あかつき教育図書	232-73	中学生の道徳1
		232-83	中学生の道徳2
		232-93	中学生の道徳3
g	日本教科書	233-72	道徳中学校1 生き方から学ぶ
		233-82	道徳中学校2 生き方を見つめる
		233-92	道徳中学校3 生き方を創造する

※3) 記号と内容項目の対応

主として	記号	内容項目
自分自身に関すること	A1	自主、自律、自由と責任
	A2	節度、節制
	A3	向上心、個性の伸長
	A4	希望と勇気、克己と強い意志
	A5	真理の探究、創造
人との関わりに関すること	B6	思いやり、感謝
	B7	礼儀
	B8	友情、信頼
	B9	相互理解、寛容
集団や社会との関わりに関すること	C10	遵法精神、公德心
	C11	公正、公平、社会正義
	C12	社会参加、公共の精神
	C13	勤労
	C14	家族愛、家庭生活の充実
	C15	よりよい学校生活、集団生活の充実
	C16	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
	C17	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
	C18	国際理解、国際貢献
生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	D19	生命の尊さ
	D20	自然愛護
	D21	感動、畏敬の念
	D22	よりよく生きる喜び